

6月16・17日の休校について

昭和46年6月18日

明 治 大 学

本学は駿河台校舎、生田校舎を6月16日（水）17日（木）の両日、和泉校舎は17日（木）を休校した。

これは、すでに学生、教職員も周知の6月17日の『沖繩返還協定調印』にあたって、「調印実力阻止」・「返還協定粉碎」などを唱える一部学生の過激な行動計画があり、これに関連した事態が15日（火）から学内外に発生したことや、最近の学内外での暴力行為を含む状況、すなわち新学期以来学生集団の間の派閥争いや集会をめぐる、4月20日の和泉校舎・5月18日・26日の駿河台校舎などに、いくつかの集団的暴力事件が発生したことにかんがみ、混乱事態をさけるためやむをえずとった措置である。

6月15日（火）、学内では「沖繩返還協定反対」などを叫ぶ学生集団が、朝から和泉校舎においては実力をもって入口をふさぎ、生田校舎では正門や農学部校舎の一部入口を大きな立看板バリケードで封鎖し、登校した学生・教職員の入構を阻止し授業を妨害した。また生田校舎では、これら学生たちが工学部長室、講師控室の窓から侵入してこれを一時占拠し、あるいは授業中の教員に中止を要求、これを妨害するということがあった。このため和泉校舎では午前の授業の一部が事実上休講となり、生田校舎でも農学部が1時限から、工学部が2時限から休講した。

駿河台校舎では平常に授業がおこなわれたが、午後には中央大学周辺で一部学生が火炎ビンを投げ騒ぐ事態がおこった。これより前の6月10日（木）には「反大学戦線」と称する過激学生集団が、中央大学を会場に集合し、付近道路で「武力闘争」を展開するという動きがあったが、事前に中央大学・日本大学が休校閉館したため、これら学生集団は午後になって、本学駿河台校舎7号館の教室にはいりこみ、約1時間にわたって集会を開くということがあった。

6月17日にむけて都内各所で各派の集会・デモが計画されているとき、最近の大学内外でおきた事態を考慮して、これら行動の拠点とされることや、大学周辺でおきる混乱から不測の事態が発生する公算があったので、それを防ぐため、やむをえずこの休校措置を講じたものであることをご承知願いたい。

なお、16日授業を実施した和泉校舎では、午前8時15分には部室センター内で反帝系と中核系双方あわせて約60名が乱闘し、午後0時30分には赤黒ヘルメットの約30名が「ロックアウト体制」粉碎を叫び、第1校舎に3回にわたり乱入し、教務課・学生課前の窓ガラス50数枚と電燈その他設備を破壊し、女子職員が軽傷をうけるという事件がおこった。またこの日、駿河台校舎でも夕刻になり黒赤ヘルメットの約50名がデモをおこない、大学の掲示をはがしたり、一部の者は7号館守衛所の窓ガラスを破壊したりするという暴力行動があった。

17日には、和泉校舎正門前に早朝より赤黒ヘルメットの学生約30名が集会し、周辺をデモり午後4時すぎに約100名が別の集会に出発していった。

以上の一連の過程で生じた暴力行為については、大学自治の否定につうじるものとして強く糾弾せざるをえない。

大学は、もとより教育と研究の場たるにふさわしい環境を維持しなければならない責任をもつものである。そのためにも、全学の各位のいっそうのご理解とご協力を要望する。

以 上